

# AFRICAN FILM

TICAD7 公式サイドイベント

## 越境するアフリカ映画

# ACROSS BORDERS:

— 新たな連携をめざして

## Building New Bridges of Cooperation

Symposium with Special Screening of "The Mercy of the Jungle"

シンポジウム | 『密林の慈悲』 特別上映付



©NRW sept / TACT PRODUCTION

2019.8.29 THU

場所 | 横浜ブルク13 (スクリーン6)

Venue | Yokohama Burg 13 (Scr. 6)

18:30-20:15 映画『密林の慈悲』 特別上映

20:25-21:35 シンポジウム

開場 | 18:00 入場無料・要事前登録

シンポジウム登壇者

河瀬 直美 (映画作家)

岡島 尚志 (国立映画アーカイブ館長)

吉田 未穂 (シネマアフリカ代表)

オーレリアン・ボディノー (『密林の慈悲』 プロデューサー/ベルギー)

フィデリス・ドゥカー (アブジャ国際映画祭代表/ナイジェリア)

アルディウマ・ソマ (ワガドゥグ全アフリカ映画祭代表/ブルキナファソ)

アンソニー・クラウス (ユネスコ文化局文化表現多様性課研究政策ユニット長)

主催：国際交流基金、外務省、ユネスコ

協力：シネマアフリカ



# AFRICAN FILM ACROSS BORDERS:

Building New Bridges of Cooperation

## 越境するアフリカ映画

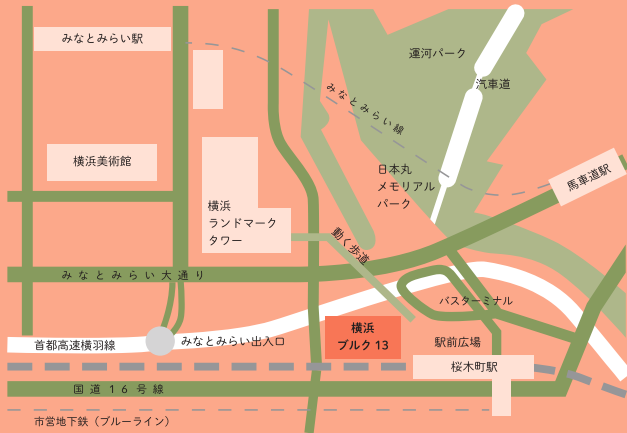
— 新たな連携をめざして

国際交流基金は、外務省、ユネスコとの共催により、TICAD7公式サイドイベント「越境するアフリカ映画—新たな連携をめざして」を開催します。本イベントでは、アフリカ最大の映画祭「ワゴドゥグ全アフリカ映画祭 (FESPACO)」で2019年グランプリを受賞したルワンダ作品『密林の慈悲』の日本初上映と、アフリカ映画をめぐる状況をよく知る映画製作者や映画祭代表らを招いたシンポジウムを行い、映画を通じた日本とアフリカの連携の可能性を探ります。

- 映画＝フランス語、スワヒリ語（日本語・英語 字幕付）
- シンポジウム＝日本語、英語、フランス語（日英・日仏 同時通訳付）

### 会場 | 横浜ブルク13 (スクリーン6)

神奈川県横浜市中区桜木町1丁目1-7 コレットマーレ6F  
 (JR京浜東北線・根岸線「桜木町駅」下車 徒歩1分、横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車 徒歩2分、横浜高速鉄道みなとみらい線「みなとみらい駅」下車 徒歩7分)



### 参加申込 Registration

ウェブにて要事前登録、入場無料

<https://eventregist.com/e/africa>

※定員(200名)に達し次第、申込みを締め切ります。



### 【お問い合わせ】

公式HP | <https://www.jpf.go.jp/j/project/culture/media/other/2019/ticad.html>

国際交流基金映像事業部 映画チーム

Tel | 03-5369-6064 Mail | ticad7\_film@jpf.go.jp



### 上映作品

## 『密林の慈悲』 The Mercy of the Jungle

2018年 | 91分 | フランス語・スワヒリ語、フランス=ベルギー=ルワンダ



監督 | ジョエル・カレケジ  
 プロデューサー | オーレリアン・ボディノー  
 キャスト | マルク・ジンガ、ステファン・バク

1998年、第二次コンゴ戦争の争いが激しさを増すなか、ルワンダ軍のゲザヴィエ軍曹と若い兵隊のフォスティンは本隊からはぐれてしまい、アフリカ大陸でもっとも深いとまでいわれるコンゴのジャングルをさまようこととなる。敵に襲われる恐怖、疲労、空腹、孤独と戦いながら、ふたりは危険なジャングルを抜け出し、本隊に合流することができるのか。極限状態における、ふたりの心の葛藤を描いたドラマ。

### シンポジウム登壇者

#### 河瀬直美 Naomi Kawase

映画作家 | Filmmaker



生まれ育った奈良を拠点に映画を創り続ける。カンヌ国際映画祭をはじめ、世界各国の映画祭での受賞多数。代表作は『萌の朱雀』『猿の森』『2つ目の窓』『あん』『光』『Vision』など。2010年から「なら国際映画祭」を立ち上げ、後進の育成にも力を入れる。東京2020オリンピック競技大会公式映画監督に就任。最新作『朝が来る』は2020年全国公開予定。

#### 岡島尚志 Hisashi Okajima

国立映画アーカイブ館長 | Director, National Film Archive of Japan



専門分野は映画史、映画保存、フィルムアーカイブ研究。1979年より東京国立近代美術館フィルムセンターにて研究員、副主任研究官、副主任を務め、2009～2011年には国際フィルムアーカイブ連盟 (FIAF) 第12代会長に就任。2016年、ジャン・ミトリ賞を受賞。2018年4月より現職。

#### 吉田未穂 Miho Yoshida

シネマアフリカ代表 | Director, CINEMA AFRICA IN TOKYO



東京生まれ。東京都立大学大学院修了。1998年からケニアにてワールドワーク、以降もアフリカ各地を訪ね現地事情や文化を日本へ紹介。東京アフリカ映画祭「アフリカドキュメンタリー2003」に参加しアフリカ映画の魅力に目覚める。2006年にシネマアフリカを立ち上げ映画祭を開催してきた。2017年山形国際ドキュメンタリー映画祭ではアフリカ部門コーディネーター。

#### オーレリアン・ボディノー Aurélien Bodinaux

『密林の慈悲』プロデューサー/ベルギー | Producer, The Mercy of the Jungle / Belgium



米国のニューオーリンズ大学で学び、2002年に独立プロダクション、ネオン・ルージュ・プロダクションを設立し、ドキュメンタリーや劇場映画の製作を行う。『密林の慈悲』ではプロデューサーを務めたほか、脚本にも参加している。

#### フィデリス・ドゥカー Fidelis Duker

アブジャ国際映画祭代表/ナイジェリア | Fonder, Festival Director, Abuja International Film Festival / Nigeria



ナイジェリアの映画界で最も有名な製作者の一人。80本以上の映画の監督、脚本、製作に携わる。アブジャ国際映画祭(ナイジェリア)代表、全アフリカ映画人連盟(FEPACI)局長、アフリカ・フェスティバル・ネットワーク会長。

#### アルディウマ・ソマ Ardiouma Soma

ワゴドゥグ全アフリカ映画祭代表/ブルキナファソ | Director General, FESPACO / Burkina Faso



ワゴドゥグ大学、バリ第1大学で映画を学び、1988年からFESPACOのプログラマーとして活躍したのち、2014年に代表に就任。アフリカフィルム・ライブラリーの設立にも携わる。ブルキナファソ文化観光省の映画・視聴覚長を務めたほか、ブルキナファソにおける著作権の浸透にも貢献した。

#### アンソニー・クラウス Anthony Krause

ユネスコ文化局文化表現多様性課研究政策ユニット長 | Chief, the Policy and Research Unit in the Section for the Diversity of Cultural Expressions (Cultural Sector), UNESCO



フランス国立東洋言語文化学院 (INALCO) で現代史の博士号を取得し、准教授として教鞭を執る。2003年にユネスコに入職。ヨーロッパ科学・文化局文化ユニット長等を歴任し、現在は文化局文化表現多様性課研究政策ユニット長を務めている。